



東京2020オリンピックが教えてくれたこと

校長 野上 孝

子どもたちの元気な声、明るい笑顔が学校に戻ってきました。子どもたちは、1学期の終業式に約束した「事故にあわない夏休み」を過ごし、全員無事に2学期を迎えることができました。本当によかったです。



1学期末には、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計結果を掲載しましたのでご覧ください。その中で、私が一番うれしかったことは、質問1「学校は楽しいですか」(児童)、「お子さんは楽しく学校に通っていますか」(保護者)のいずれもが、肯定的評価96%を越える高い数値だったことです。子どもたちはコロナ禍で制約が多い中でも、我慢すべきところは我慢し、工夫しながら学校生活を楽しく過ごしてくれました。これも、保護者の皆様のご理解ご協力のお陰です。ありがとうございました。引き続き、学校が子どもたちにとって楽しい学びの場であるよう努力して参ります。

さて、夏休みに入ると同時に始まった東京オリンピック。今はパラリンピックが始まっています。オリンピックでは、連日、多くの感動がありました。当たり前のことですが、どの選手もその日(瞬間)のために精一杯がんばっていました。見ている私はそのがんばる姿に「応援」の形でいっしょに戦い、多くの感動を与えてもらいました。結果はさておき、やはり「一生懸命はかっこいい!」と思いました。また、メダルを取った選手のコメントには「あきらめなかった」との言葉が多く聞かれました。高い目標を掲げあきらめずに続ける。正に「継続は力なり」の大切さを教えてくれました。見ていた子どもたちもきっと何かを感じ取ったと思います。

感動の多かった東京オリンピックの中で、マスク姿の一人のバレーボール選手が話題になりました。男子ブラジル代表のルーカス・サートキャンプ選手です。彼は感染防止のためとはいえ、試合前だけでなく試合中でも決してマスクを外すことがなかったとのこと。その理由を次のように答えたそうです。

「すべては家族のため、家族を守るためだよ。」

現在、全国各地で感染力が強いと言われる変異株の感染者割合が上昇しています。2学期以降も自分を守り家族を守るために、学校では、原則マスクの着用、手洗いの徹底、換気などの基本的な感染症対策を徹底し、工夫しながら教育活動を進めて参ります。ご家庭でも感染防止と検温等の体調管理の徹底、また、お子さんに発熱等の風邪症状がある場合には、無理に登校させないようにお願いいたします。